

# 学年通信

46期 第3学年

2021年 8月号

## 2021夏、応援団の「アツイ」思い出

まずは応援団演技お疲れさまでした。何ヶ月も練習してきたものが成功すると皆さんの達成感を感じますね。団長は全部一人でやりこなすイメージがありましたが、それは全くの別物で、困ったらみんな助けしてくれますし、僕が二週間ぐらい休んでいる時も色々やってくれたりして、周りの人々のありがたさに気づきました。僕自身あまり前に出て何かすることはなかったのですが、こんな自分を変えたくて団長に就任しました。今、自分自身に自信がない人は周りの人も助けしてくれるから、変な先入観を持たずに、自分から積極的な行動を取ってほしいと思っています。ありがとうございました。(総団長・紫団団長 7組)

僕は昨年応援団に憧れていて、特に「団長」というものに強く憧れていました。団長というのはみんなのお手本となれるような存在である必要があります。しかし、僕はみんなの手本になれる行動を普段の生活の中でできていませんでした。それでも僕は団長になりたかったので、団長に立候補しました。団長になったばかりのころは、団長という意識が低く色々な先生方に注意を受けていました。次に注意をされたら団長はできない、と言われ、僕はこのままの自分ではだめだと気づき、意識が変わりました。みんなの見本となり、引っ張っていけるようになりたいと思いましたが、自分の力だけではどうしてもできないことが多くありました。その時に副団長やチーフたちに支えてもらい、ダンスの練習もスムーズに行えました。難しいダンスが多く、大変なことも、ありましたが、赤団のみんなと体育祭ができて最高に楽しかったです。ありがとうございました。(赤団団長 1組)

本格的に3学年で協力し合って一つのものをつくるのは、最高学年としては最初で最後だと思います。自分はこの学年が本当に大好きで、何かみんなでもやり遂げたいな、と思っていました。それに加えて自分には尊敬している人がいて、みんなの太陽みたいに明るく、みんなから慕われるような人にとっても憧れていて、少しでも近づきたいという気持ちから団長をやりたいと思いました。自分は元々積極的な性格じゃないし、人前に立つなんて絶対無理な人間だったけど、自分が今こんな風に過ごせるのは、優しくして心の温かい人たちがたくさんいたからです。自分一人じゃ何もできないので、仲間の偉大さにあらためて気づかされる応援団活動ができました。年を取っても忘れないくらい自分の心に刻まれました。みんなの最高の思い出って思えるような応援団活動になっていたら幸いです。頑張った人たちが全員が輝いてとても充実した日々を送れました。本当にありがとうございました。(白団団長 4組)

皆さん、体育祭お疲れ様でした。5月頃から体育祭の準備を始めましたが、黄団の印象は全員がすごくやる気に満ちあふれていることです。幹部を決める会議では、出席しているみんなが立候補して、副団がなかなか決まらず、最後まで話し合っていたのを覚えています。そして、そこで選ばれなかったとしても裏方として手伝ったりもしてくれました。一週間前から始まった団の練習では、衣装やダンスがかなりギリギリでみんなに手伝ってもらうこともありましたが、快く受けてくれて、ありがたい言葉にはなってしまいますが、本番最高に楽しい演技ができたのは、皆さんのおかげです。こんな団長についてきてくださり、ありがとうございました。他の団も黄団が困っていたら、「人貸そか」など、どの団も優しく一緒に幹部やれてうれしかったです！最後になりましたが、団活動に携わって下さった先生方、本当にありがとうございました。(黄団団長 6組)

今年の白団副団長を務めました3年4組森菜奈美です。団員のみなさんお疲れ様でした。他の人も応援してくれてありがとうございました。副団長になってからは楽しいことはもちろん多くありましたが、その分チーフとぶつかったり、勉強時間が大幅に減ったり、受験生としての焦りなどもあり泣いてしまったりしてしまったりもありました。そのときに白団のチーフや他の団の団長、副団長、親や友だちに何度も何度も支えられてきました。私一人では副団長をすることができませんでした。まわりのみんなに感謝しかありません。そして、3・4組の団員の人たちは暑く、厳しい練習の中、一緒に頑張ってくれてありがとうございました。白団の副団長をで

きて楽しかったです。最後の体育祭の応援団、どの団も本当にすばらしかったです。お疲れ様でした。(白団副団長 4組)

応援団演技お疲れ様でした。自分は副団長の仕事を担当していましたが、「しっかりして皆をまとめあげる副団長!!」とは裏腹に、ラフで気楽な感じだったと思います。それでも団の皆は協力的で、しっかりついて来てくれたことに感謝しています。一番印象に残っていることは、ダンスの練習です。自分はダンスを教えたり、隊形を見るが多かったのですが、その時に見る皆の姿が一番楽しそうに見えたからです。そんな団員と短い間でしたが、一喜一憂し、最後の応援団演技を満喫できて心から良かったと思います。(黄団副団長 5組)

私は黄団の副団長を務めさせていただきました。副団長は私含め4人が希望していたので、選ばれたからには、他の人たちの思いも背負って取り組もうと思っていました。4月中旬から始まったチーフ会議はとても楽しく充実していましたが、本番が近づくにつれ、他の団より、出来上がりが遅くとも追い込まれていました。気持ちが沈んでいた時、チーフのみんなや他の団のみんな、何よりも支える立場の私が団長に支えられていました。この機会を通してあらためて友だちの偉大さを実感しました。そして、黄団の一員になってくれたみんな。正直、他の団より団員が練習に参加する期間は短く、最後の楽しい団練習の時間を奪ってしまった形になりましたが、みんなの作業、練習への意欲やかけてくれた言葉一つ一つにとっても救われました。もっと早くからみんなの力を借りたかった。演技終了後、みんなの最高のスマイルが見られて大満足でした！最高の思い出をありがとう！最後になりましたが、どの団も素晴らしいです。お疲れ様でした！(黄団副団長 5組)

四月から頑張ってきた団活動はあっという間でした。やらなければならないことが多すぎて常に焦っていました。でも、そのとき助けてくれたのは仲間でした。度々あった団長会議も、団長、副団長がいれば苦ではなかったです。約90人の団員を引っ張っていくことは大変で、でも団員の「ありがとう」や「お疲れ様」で、明日も頑張ろう、と思えました。他の団がどんどん進めているところを見ると、自分もやらないと、という気持ちになりました。これこそが仲間だと思いました。私にとってその存在はとても大きかったです。支え合うことの大切さを知る良い機会になりました。これから、文化祭などで前に出ることがあると思います。大人数を仕切ることには大変ですが、それ以上に達成感などいろいろなものを得ることができます。みんなには積極的に動いてほしいと思います。私たちがそのような勇気を出すきっかけになればいいな、と思います。46期生、素敵な思い出をありがとう。

(紫団副団長 7組)

私は元々あまり関わったことがない人と話したりすることが苦手で、どうしても猫を被ってしまう自分が嫌でした。それを克服する良い機会だと思い、団長さんが声をかけてくれたのもあって、副団にチャレンジしました。副団の仕事は自分が思っていた以上に多く、ダンスを考えるのを手伝ったり、布を買いに行ったり大変でした。ですが、その苦労があったおかげでみんなと仲良くなれたので本当によかったです。印象に残っていることは、赤団の難しいダンスをみんながすぐに覚えてくれたことです。本番では、完璧な応援団演技で優秀賞もいただけたのでとても達成感がありました。赤団の副団長ができて幸せでした！

(赤団 副団長 8組)

私が応援団の活動を振り返って印象に残っていることは、とにかく楽しかったということです。団長とチーフは団の練習が始まる前にダンスの振り付けや隊形の移動を一から考えていました。初めてのことで難しく苦労したけど、いい経験になりました。練習が始まった後も上手く教えるために、どうするかをみんなで考えたりもしました。みんなで意見を出し合って工夫することは、とても楽しかったです。団員のみんなもみるみる上手くなって迎えた当日、団員みんなで最高の演技にすることができました。応援団での活動はどれも楽しくてやってよかったなと思います。次は高校生最後の文化祭です。みんなで力を合わせて楽しく、思い出に残る文化祭にしましょう。(赤団 副団長 8組)